

平成29年度鹿児島学習定着度調査結果（概要）

義務教育課

1 実施の状況

【学力調査】平成30年1月17日（水）・18日（木）に実施

○ 「基礎・基本」に関する内容と「思考・表現」に関する内容の調査

・小学校第5学年（国語，社会，算数，理科）

・中学校第1・2学年（国語，社会，数学，理科，英語）

※ 新学習指導要領を踏まえ、「思考・表現」に関する力の育成を更に充実するため、各教科を通じて、考えをまとめ表現する問題の質的な向上を図った。

【学習状況調査】平成30年1月17日（水）～19日（金）に実施

○ 児童生徒の学習に関する意識や学び方などの調査（質問紙）

2 学力調査の結果

（1）平均通過率 [%]

		国語	社会	算数・数学	理科	英語
小5	全体	66.8	65.6	62.7	68.8	
	基礎・基本	73.1	69.4	72.6	65.9	
	思考・表現	45.8	57.0	43.9	73.4	

中1	全体	65.1	53.3	62.8	55.1	63.3
	基礎・基本	68.0	59.2	67.7	59.7	68.4
	思考・表現	57.6	39.3	50.6	46.9	55.9

中2	全体	63.9	57.1	59.0	46.3	59.8
	基礎・基本	68.5	61.4	66.8	56.3	64.4
	思考・表現	53.2	46.9	44.3	28.5	52.6

（2）結果の概要

○ 「基礎・基本」の問題に関しては、表現された言葉や内容を正確に理解する力、表やグラフを読み取る力、観察器具の適切な使い方などで、基礎的・基本的な内容が定着していない様子が見られた。

（例）中1国語：平易な文章の意味の理解（読解力）

通過率30.7%

中2国語：同上（中1国語と同じ問題）

通過率38.4%

小5理科：星座早見の使い方

通過率42.6%

○ 「思考・表現」の問題に関しては、図、表、グラフ、資料等を関連付けたり、根拠を基にして自分の考えを記述したりする問題、習得した知識・技能を日常生活の場面で活用していく問題等について、通過率が低く、無解答率も高くなっている。

（例）小5社会：工業生産を支える運輸の働き

通過率32.7%

無解答率16.8%

中2数学：比例のグラフとその読み取り

通過率25.2%

無解答率31.3%

○ 過去に課題となった内容について、追跡する問題を全教科合わせて74題出題した。7割程度の問題において通過率が上昇するなどの改善が見られるものの、例えば、中2理科の化学変化の様子をモデルで表現する問題は30.5%とほぼ変わらず、気体を分子モデルで表現できておらず、課題が継続している。

3 児童生徒質問紙に対する回答の概要

学習に関する意識や学び方について、児童生徒の回答の主なものは以下のとおり。

○家庭学習について [%]

質問内容	小5	中1	中2
①家では、自分で学習している。	84.1	79.7	76.9

家庭学習について、「している」「どちらかといえばしている」と8割程度の児童生徒が回答しているが、学年が上がるにつれてその割合が減少している。

質問内容	小5	中1	中2
②自分で計画を立てて学習していない。	12.0	15.1	17.4

計画的な家庭学習をしていない割合については、学年が上がるにつれて増加している。

○学校での学習活動について [%]

()はH28との比較

質問内容	小5	中1	中2
③授業のめあてを立てている。	90.6(+0.9)	87.8(+1.7)	87.2(+3.1)
④授業の始めに学習することを確認している。	78.8(+7.5)	66.4(+5.6)	63.7(+2.6)
⑤学習内容を振り返る活動を行っている。	76.2(+7.3)	64.5(+6.7)	61.2(+8.0)

授業のめあてを立てることや学習の見通しをもつことの割合については、全体的に増加しているが、小学校で2割、中学校で3割を超える児童生徒が、授業の始めに見通しをもたせる活動が行われていないと感じている(④)。授業の終末に学習内容を振り返る活動の割合は、いずれの学年も昨年度より7%程度増加しているが、まだ十分には行われていない状況がある(⑤)。

質問内容	小5	中1	中2
⑥授業では、自分で考えたり、進んで活動に取り組んだりしている。	78.0	72.5	71.3
⑦授業では、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。	72.0	71.4	71.1
⑧授業で学んだことをほかの学習や生活に生かすことができる。(新規)	82.1	72.3	68.4

7割を超える児童生徒が主体的・積極的に学習に参加できていると感じている(⑥)。先生から教えてもらったり、友達と話し合ったりしたことを通じて考えを深め広げている児童生徒も7割を超えている(⑦)。授業で学んだことを他教科等や生活に生かすことについては、学年が上がるにつれてその割合が低下している(⑧)。

4 今後の取組

- 各学校に対して、2月に配布した鹿児島学習定着度調査結果中間まとめを活用して、調査結果を基に全県的な傾向との比較・分析等を通じて自校の課題を明確にし、年度中に補充指導を徹底したり、次年度の年間指導計画を作成したりするなどして、課題の克服に向けた取組が充実するよう促す。
- 来年度新たに実施する「主体的・対話的で深い学び」の実現による学力向上プログラムの取組の中で、「学びの組織活性化」推進プロジェクトを実施し、学力向上担当教員を中核とした学力向上推進体制を整備する。また、大学教授等からの各種学力調査の詳細な分析等について指導助言を受けるなどして、授業づくりを学校全体で共有化し、組織的かつ総合的な学力向上の取組を展開する。
- 新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の取組を推進するために、学力向上指針である「学びの羅針盤」を全面改訂する。